

## 第2期 第4回向日市エコ地域推進委員会議 会議録

- ・ 日 時 : 平成21年1月22日(木)  
午前10時～11時50分
- ・ 場 所 : 向日市役所 第一会議室
- ・ 出席者 : 委員 12名  
山本市民生活部次長  
谷川課長補佐 笹田係長 高津総括主任
- ・ 傍聴者 : なし
- ・ 議 題 : 1. 副座長選出について  
2. アンケート結果調査について  
3. 「ノーレジ袋・マイバッグ運動」の事業者への協力  
依頼について(報告)  
4. その他

(事務局)

みなさん、おはようございます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

本年初めての会議ですので、改めまして、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより、第4回向日市エコ地域推進委員会議を開催させていただきます。

まず、はじめに、事務局より残念な報告をさせていただきます。

昨年、土橋副座長より辞任の申し出がございました。

事務局から自宅へ伺い、慰留に努めましたが、残念なことに意志が強く、座長とも相談いたしまして、願い出を受理いたしました。

残念ではありますが、土橋さんの辞任を報告させていただきました。

副座長が欠員となりますので、後任の副座長を選任していただきたいと思っています。

この件につきましては、向日市エコ地域推進委員会議要綱第5条第3項におきまして、座長の指名となっておりますので、みなさんよろしいでしょうか。

(委 員)

異議なし。

(事務局)

それでは、みなさんのご同意を得ましたので、座長より副座長の指名をいただきたいと存じます。

よろしく願いいたします。

(座長)

事務局からお話がありましたように、土橋さんが辞めたいということでありまして、私もお話をしましたところ、健康的なこともございまして、事務局からも行っていただきましたが、お引き留めはいたしませんでした。

そこで、副座長の選任については、第一期の副座長でもありまして、ご本人もISO14000の事務局を持っておられ、事業所の温暖化にご尽力されている、戸田 英四さんを副座長に指名させていただきます。

よろしいでしょうか。

(委員)

拍手

(副座長)

ありがとうございます。

マイバッグ運動の方も、一歩二歩と進んで良くなってきている。

昨年の、東京商工会議所のエコ検定、この間の3R検定を受けましたが、随分世の中の動きが進んでいる。

また、自治体の方でもマイバッグ運動への取組は進んできております。

向日市とこの会議とがともに、この活動への取組を進めていきたいと思しますのでよろしく願います。

(事務局)

皆さん、ご賛同いただきましてありがとうございます。

副座長には、座長の手助けという形でまたご協力をよろしく願いいたします。

それでは、会議に入らせていただきたいと存じます。

座長、よろしく願いいたします。

(座長)

昨年、11月の向日市まつりにおいて、マイバッグ運動、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

向日市まつりでは、その前の年よりも比較的ごみの散乱はしていなかった。

しかし、各事業所に対するトレーなどはまだ頻繁に出ている。

そのことについては市民参画課からも、今年はその程度であったが、来年(21年度)はもっと協力的にやりたいと言っていた。

次に、アンケート結果について、事務局から報告をお願いします。

(事務局)

議題の第2点目、アンケート調査結果について報告させていただきます。

お手元の資料1の「平成20年度エコ地域推進委員会議アンケート結果」をご覧ください。

このアンケートは、昨年、11月15日・16日に開催されました向日市まつりにおいて、240人の方にご協力をいただきました。

内訳は、男性 61人 女性 179人で、また、年齢別内訳は、資料の5ページに参考として載せています。

アンケートの内容は、エコ推進委員会議について、マイバッグについて、そして、クリーンプラザおとくについての3つに分けて尋ねました。

棒グラフは、年代別の回答者の人数を表しています。

1番目に、向日市エコ地域推進委員会議を知っていますか？との問いに、知っている 47% 知らない 53%でありました。

年齢から見ますと、50代以上の方には知られていますが、若い方には知られていないという結果でありました。

2番目に、毎月30日に「ノーレジ袋・マイバッグ運動」を行っていることを知っていますか？との問いには、知っている 44% 知らない56%でありました。

これもやはり、若い方には、知られていませんでした。

3番目に、買い物に行ったときレジ袋をもらいますか？との問いには、もらう 16% もらわない 37% 時々もらう 47%でありました。

4番目に、レジ袋が有料化されている店での買い物はどうされますか？との問いには 買い物をする 71% しない 29% でありました。

5番目に、マイバッグを常に携帯していますか？との問いには、買い物の時だけ 34% 常に携帯 50% 携帯しない 16% でありました。約84%の方がマイバッグを利用されていることになります。

女性の方は、179人中164人、約92%が利用されています。

また、6番目には、5番目の質問で、マイバッグを携帯しないと答えた、16%の39の方に、今後マイバッグを携帯しますか？との問いに、持たない5人 持つようにする 24人 わからない 10人 という結果でありました。

7番目に、「クリーンプラザおとくに」で燃えるごみ・燃えないごみの処理を行っていること知っていますか？との問いに、知っている 74% 知らない 26% でありました。

8番目に、「クリーンプラザおとくに」はどこにあるかご存知ですか？  
との問いに、知っている 50% 知らない 50% でありました。

9番目に、「クリーンプラザおとくに」へ見学に行ったことがありますか？  
との問いに、行ったことがある 24% 行ったことがない 76% でありました。

「クリーンプラザおとくに」の見学会は、毎年6月の環境月間に、広報紙で市民参加を呼びかけていますが、毎年参加者が少ない状況であります。

この呼びかけをもっと積極的にし、大勢の方に行っていただくよう啓発の仕方を考えていく必要があると考えています。

全体的には、年齢が高いほど、エコ会議の存在をご存知であったり、また、マイバッグを利用されているなど、エコに対する意識が高いという結果となりました。

以上でアンケート結果報告を終わります。

(座長)

アンケート結果についてご意見はございませんか。

(委員1)

小学生よりも、20代といえば大学生の年代だと思いますが、小学生よりも劣っている。すべての項目において、20代の方は劣っている。

大学あたりの教育の場でもこういうことは、もっとすすめていった方がいいと思います。

(座長)

エコ推進会議を約50%が知っている。

ノーレジ袋運動を知らないが、約50%おられる。

今後どうしていくか。翌年度の運動のやり方を考えていかなければならない。他に何かご意見ございませんか。

(委員1)

20代が少ないのはなぜでしょうね。

(座長)

委員の募集の広報について、平日の会議に出席される方の募集が多い。

若い人は学校へ行っていますし、また働いている方もいます。土曜日曜であれば、イベントなど比較的参加しやすいのではないかと。

たとえば、まちづくり委員会に参加したいが、平日の昼間の会議であれば、20代の方はほとんど参加できません。

土曜日曜となれば、クリーンプラザの見学にしても集まるのではないかとと思う。

また、平日はパートに行かれている家庭の主婦の方もあるので、ちょっと難しいのではないかと。

今後、市全体としての委員募集や、イベントのあり方について考えていく必要がある。

他に何かございませんか。

(委員 2)

実際のティッシュ配りをするときに、マイバッグを持っている人の感じと、このデータとは、ちょっと違うように感じた。

たとえば、レジ袋をもらいますか？との問いに、もらわない人が35%、4割ぐらいがもらわない。マイバッグを常に携帯していますか、との問いには、だいたい買い物をするときには持っていて、80%ぐらいが持っている。

この結果から見ると、サティの前で配っているとき、もっとマイバッグを持っていた方がいいのではないかと感じた。

まつりに来られアンケートをした人は、マイバッグへの意識が高い人だという感じがした。

(座 長)

アンケートでは、マイバッグを常に携帯しているが50%、しかし各事業所が把握しているマイバッグを持って来ている数と比べると差がある。

マイバッグを持っている人は、少ないというところでもない。そうすると、事業所の社員教育の問題も関わってくると思う。

(委員 3)

マイバッグを携帯していても、レジ袋をもらうことがある。

主婦はごみ袋になるからいただくという人が多い。これが有料だと絶対いらないと思う。どうしても無料だから、もらうという人が多いと思う。

(座 長)

新聞に、京都市の有料化のパーセントが載っているけれど、本当にマイバッグをそれだけ持っているのかという感じがする。

有料化は有料化でもお金さえ払えばバッグがもらえるという感じがする。全然出さないというのではないですから、お金を払ったら出すのだから。非常にこれは、先の長い話だと思います。

ここでは、有料化をされていても買い物をされる方は71%ありますね

(委員 4)

これは、他のデータでも言われていますね。有料化されてもそこで買う。マイバッグの中にレジ袋を入れて帰る。やはり、家ではレジ袋はいるので

すね。

(委員 3)

ごみを捨てるときや、いろいろなものを入れるときに使うので、どうしてももらって帰るときがある。

(座 長)

アンケートにつきまして、他にございませんか。

ないようでしたら、次に事業所訪問依頼ということで、12月5日(金)午後1時から、市長印を押した書類を持って、委員3名、事務局3名の計6名で9事業所をまわりました。

この報告をお願いします。

(委員 5)

まず、市長印が押してある協力依頼の書類を持って行ったことについて、長年やりたいと思っていたことがやっとできて、喜んで行かせていただきました。

内容としては、座ってしゃべるわけではなくて、立ち話のような感じで、どの事業所も、5分、10分もしゃべってないと思いますが、市役所から事前に訪問のアポイントがとってあったので、どの店長もきちんと対応をしていただきましたし、内容についてもきちんと聞けたと思います。

市全体の事業所の状況や、消費者の状況もきちっとわかって、だいたいの目途がついたと他の委員さんとも話しをしていました。

一番目に、事業所Aの事務局へ行き、「今日依頼のあったことを会議で報告します」と資料に書いてあるように、それ以上のことは何もなくて、もう少しがんばってほしいと思いました。

次に、スーパーBへ行き、社長とお話をいただき、来年からマイバッグを作って、買い物をしてくれる人に渡して、それを持ってきてもらうようにしたいと考えている。その方が、経費もかからないし、店の方もありがたい。

持ってこない人はどうするのか、と聞くと、やはり、有料化でしょうね、と言っておられました。

その後、スーパーBへは、私はあまり行ってないのでわかりませんが、これから行かなければならないと思っています。

次に、スーパーCへ行きました。

ここは、毎月「ノーレジ袋の日」を設定していますし、全店の袋の持参率や、リサイクル率が掲示されていました。

マイバッグの持参率(11月分)38.8%というのは、たぶん、全店

的に3割から4割までという話と合致しているので、たぶんこの数値が、向日市内での消費者の持参率もこれくらいではないかとの感じでした。

次に、スーパーDへ行きましたが、ここはあまり何もされていませんでした。

ポイントというのは、買い物をしたら付くポイントですし、ポイント券2枚でエコバッグ進呈と資料には書いてありますが、あまり持って来ている様子ではなかったし、もう少しがんばってほしいと思った。

次に、スーパーEでは、季節的にマイバッグを無料で配布したことがある。今は特に何もしていない。マイバッグを198円で売っておられましたが、特に今は何も対策をとっていない。

スーパーFでは、レジで「袋をいりません」と言うと、ハンコを押してもらって、20個貯まると100円のお買い物券として利用できる。今後は全国的な流れを見ながら、有料化も検討中ですよと言っておられました。特に進んで何かをやろうということではありませんでした。

次に、スーパーGでは、特に今は何もしていない。協力依頼のあったことを報告しておきます、とのことでした。

次に、スーパーHでは、ポイント制でありまして、そのポイントを貯めると100円引きで、これは、エコということではないのではないかと思います。

次に、スーパーIでは、自分のカゴを持って行くと3円引き、それ以外、袋を自分で持って来た場合は1円引き、レジで返金。エコバッグを持って買い物に来たら、5%引きの日というものもあります。

スーパーIとこれからはスーパーBががんばっておられると思います。

時間は、そんなにはかけてないのですが、内容はきちんと聞いたのでよかったですと思いました。

市役所の協力も、ありがとうございました。

(座長)

ありがとうございました。

各店舗とも、だいたいマイバッグを持って来られるのは、38%くらいという認識はあります。

とくに、最初に印象がよかったスーパーBは、今どうなっているか。

2月に入ったら一度行ってみようかと思っている。

石油製品が値上がり、レジ袋を仕入れる値段と比べると、マイバッグを作った方がいいのではないかというので、専門のマイバッグを2,000か3,000個作っている。前向きな取組みである。

一番感心したのは、スーパーCは、社長が中小卸の組合の会長をされ、環境問題に非常にくわしく、トレーなどいろいろな問題をやっておられる。

11月のマイバッグ持参率は38.8%であります。

最初にも言ったように、今後は、事業所の社員教育というものが必要ではないかと思う。50%になるには努力は必要だと思います。

全くレジ袋を出さないと言うのではないです。出すところもあるのだから。せめて50%にはしたい。38.8%では心もとない。

それがしいては、クリーンプラザのごみに影響してきます。

(座長)

私は北の方にいるので、スーパーIは知らなかった。みなさんからの話を聞いて、進歩しているように考えていたが、現実行ってみるとそうでもなかった、という印象がある。

店長に聞くと、やはり現実、マイバッグ持参率は、35~38%くらい。

バッグを買って、3円引きをしても、30か38%でしょうねという返答であった。

50%いつているかと思っただけれどそうではなかった。

レジではレジ袋を渡さないが、レジを出た台のところには、ナイロンの小袋があるので、それを持って帰られる。

結局、そんなに前評判のようではなかった。

スーパーFの場合、店長と話をしてみると、全国チェーンのため各店舗の所在地により、市民の考え方にそれぞれに違いがあるので、有料化は難しいようです。

他にありませんか。

(委員1)

今回、回ったのは、向日市内のスーパーがほとんどですね。

ところが、全国のコンビニの売上げが、デパートの売上げより増えたというくらい、コンビニがすごい勢いです。

コンビニはほとんど袋を出す。何を買っても向こうが勝手に出す。

お昼時になると職人さん方が弁当を、朝も学生さんが弁当を買ったりおにぎり買ったり、ほとんどがレジ袋に入れてもらっている。

あれは絶対なくすことはできないのですかね。

(座長)

むつかしいらしいです。

(委員1)

全国の百貨店の売上げよりもコンビニの売上げが上回ったというくらい



だから、かなりのレジ袋が出ていると思う。

(座長)

出ていますね。

(委員1)

たとえば、断る学生もいないし。

あんまり、コンビニの方は、マイバッグのことを言わないのでしょうか。

(座長)

これは、全国的にみても相当努力がいるでしょうね。

京都新聞でも、有料化しているスーパーのマイバッグ持参率60・70%くらいとか書いてあるけれど、おそらくそれはないと思う。

スーパーIのように経営者としてはレジ袋を、何千枚、何万枚と買わないといけな。経営的に相当な負担がかかってくるのがわかっていると思うけれど、やはりそれはできない。

(委員5)

私が聞いたのは、レジ袋は原価というか、買えば、1枚2円何十銭と聞いた。

(座長)

レジ袋を出さないという、自分のところの購買力とを計算しているのでしょうかね。

(委員4)

今のコンビニは、万引対策というのがあると思う。

1円2円を削るより、マイバッグの中に商品を入れて外へ持ってでる人がいるかもしれない。店員さんも1人か2人しかいないのだから。

(座長)

他に何かご意見ございますか。

(委員5)

日本は、温暖化防止会議から化石賞というダメな賞をもらっているのでやはり国の姿勢をきちんとしてもらわないと。

(委員6)

去年、事業所を回らしてもらったけれど、現場を見てまわることと、サティの前で立っているのと違う。やはり現場を見ないと。市長も一緒に現場を見てもらったら、違う見方ができると思う。

(座長)

今の日本は、地球温暖化は世界で最低だと思う。

アメリカのオバマは相当積極的に動いてくる。

(委員 5)

環境NGOは市民が動かしていかないと。国は今のところは、しょうがないでしょうというような方針だから。

(委員 7)

コンビニは、チェーン店だから本部が元になっていて、一人ひとりではどうにもならない。

コンビニの24時間営業のことで、京都市が言ったけれど、コンビニの本部がダメだといえばダメになる。

24時間営業していて、どれだけの客が3時や4時に来るかという話です。店員置いて、やっている人も大変らしい。

(委員 4)

それも世論ですね。いずれ体制を決めれば従わないと。

(委員 7)

アメリカの話ですが、アメリカのレジ袋は薄く、紙袋を使っている方が多い。

(座 長)

マイカルでも、向日市がいくら有料化にして下さいと言っても、全国的な組織なので本部で決められ、向日市だけが有料化にするということではできない。

今の話にもあったように本部を攻めていかないと。

(委員 7)

営業から商品、営業時間まですべて本部が決めている。

(座 長)

マイカルに聞いたら、本部が何億枚仕入れて、それを各店舗に配っているらしい。

(委員 7)

仕入れもすべてコンピューターだ。

(座 長)

向日市の店では、マイカルがいくら仕入れているかわからないと言っている。

(委員 5)

枚数はどこの店でも言ってくれませんでしたね。

(座 長)

ライフでも全国仕入れしているのでわからないと言っていた。

他に何かご意見ございませんか。

(委員 8)

私も行く予定をしていたのですが、急用で行けませんでした。

行かれた方、ご苦労様でした。ありがとうございました。

今の報告でよくわかりました。

2つほど感じたことは、1つは、袋を行っている人が、何パーセントということがありますが、買い物に行くと、マイバッグそのものを持っている人は、だいたい10人に1人ですね。どこへ行っても、ほとんどがレジ袋です。

統計結果とか、持参率で、38や40%という数字は、私には信じがたいし、あまり持って行こうとしていない、という感じがする。このデータを見ても、レジ袋に関して感心が薄いと感じます。

大きな店では当然、仕入れは1ヶ所で、おそらく何億枚という数量で作っていると思う。

レジ袋そのものに固執して、実際にマイバッグを持っていこうとしている人との乖離（かいり）というか、バイアスというのがすごく感じます、

もう1つは、マイバッグ運動そのもの、あるいは、地球温暖化も二酸化炭素削減の問題にしても、自動車にも乗らず、買い物に行って紙袋も何ももらわず、というようにまじめに考えていたらノイローゼになる。

まず、この世の中で車になんか乗れないはずがない。私の場合、車がなかったら活動、行動ができない。

いつも乗りながら、炭酸ガスを出しているなと思う。

それからデパートで大きな買い物をして、紙袋をもらわず持って帰るわけにもいかないし、また、袋をもらってしまったと思う。

どういう心がけでみんなが行動しているのか。結局自分しかない。

少しでもアイドリングを減らそうか、自動車に乗る機会を減らそうか。とにかく、全部資源の浪費です。もっと精神的な自分たちあるいは、一般の人たちがどうするのがいいのかということで、私はマイバッグ運動を続けていきたいと思っている。

だから、ノーレジ袋・マイバッグ運動をすることが、地球温暖化や地球を救う、宇宙を救うということにどこまでつながるかわかりませんが、それくらいしかこの10何人かではできないかなあというところがありますし、もっと他に何かないかと考えているのですが。

結局、10何人かではできない。だから、もう少し精神面を大事にしていきたいと思っている。

ポイント制や、お金を支払うようにしたら、マイバッグ持っている人が

増えるという議論は私はやりたくない。

そこに目的があるのではなく、少しでも地球に優しく宇宙に優しくするにはどうしたらいいのか。その一つとして、マイバッグ運動をこの委員会ですっと続けていきたいと思っている。

また、そういう話ができたらいいし、他に取り組むことがないか、そのようなことについて議論をしたいと思っている。

(座長)

よくわかりました。

我々のマイバッグ運動は、啓蒙することにより、一人でも多くの人に気がついてもらったらいいと思う。それが必ずしも100%携帯してもらわなくてもいい。一人でも多くマイバッグを持ってもらいたい。

買い物に行くときも、たまには車に乗らず歩いて行ったり、生ごみを堆肥化してごみの減量にしたり。

私は、地球温暖化防止は、自分ができることをやっていくことが大切だと思う。

このデータを見て、一番気になったのが、常に携帯しているのが50%、事業所をまわったら、30%以下。矛盾を感じる。

(委員8)

これを見ていたら、ある意味、信用するしかない。20代は7人。

買い物に行ったときレジ袋をもらわない人達もいるし、マッチングしていない。

何も知らない0%、この委員会でやっていること、そういう事柄を知らない人もいます。

「この委員会が」という主語がありますが、ノーレジ袋や、マイバッグ運動のことを知っていたら、委員会のことを関係なしに、知っている、と書くのか書かないのか、どの程度のレベルが20代の人がわかりませんが、一人もしらないわけです。

それにも関わらず、他のところのデータは、持っているとか、もらうとかいろいろあるけれど、それだったら「0」でないといけないと思う。

あまりこれは、信用すればするでもいいですが、先ほどの50%持っているのであれば、もう少し他の数値が高くないといけないと思う。

これは、参考にはなりますけれど、データの読み方は難しいと思う。

(座長)

一応、データをとった上で、参考資料として、どういう考え方でおられるのか。ある程度わかってきたけれども矛盾性はある。

次に、いろいろな段階はあるけれど、マイバッグ運動は続けていくべきだし、啓蒙することによって、だんだん認識が新たになってくるし、知っておられない方でも知ってくれるようになる。

(委員 8)

先ほど、悲観的に言いましたが、数はまだ少ないですがマイバッグを持っている人は確実に増えているようには思います。

(委員 9)

意識づけがポイントになってくる。

マイバッグの必要性は、このように貢献するとか、これだけ役に立とか、ティッシュの中のチラシにPRをする。

(座 長)

広報紙に、向日市まつりで回収した紙パックの量は 100 キロと書いてありましたが、この量からすると、紙パックのリサイクルに対する関心は相当あるように思います。

今は市役所と、物集女コミセン・上植野コミセンに回収場所があるけれど、各自治会内でパックを回収する一つの機関を設ければ、もっと増えるのではないか。

まつりの2日間で100キロ集まったのだから。

マイバッグをもらうために持ってきたのかもしれないが、常に貯めているのは関心があるのではないか。紙パックのリサイクルをもっと勧めていけば相当集まると思う。

(委員 1)

牛乳パックの引き換えをされていて感じたことは、パックをきちんと揃えて持ってきてくれる人と、マイバッグをもらうために、中が汚れたまま持ってくる家庭とがある。

牛乳パックひとつにしてみても、家の中がわかるように思う。たぶん、中身を洗わずに持ってくるような家の方は、おそらくゴミとして捨てているのではないかと思う。バッグがもらえるから持っていこうということではないか。

そういう人はわずかでしたが、だいたいの方はきれいにきちんと持ってきてくれました。

もうひとつ、このデータで気になっているのは、この委員会が毎月30日にサティ前でティッシュを配っていることを20代の方はほとんど知らない。

今回、若い人に、できるだけ渡そうと思っている。

しかし、平日は、20代の若い人は少ないですね。

(委員 3)

西山高校の下校時はどうですか

(委員 1)

ほとんど60代くらいの人が多いので、せいぜい20代の人たちに何とか渡す方法はないものか。

まだ小学生の方が「知っている」というのが多い。学校で教育されているのでしょうか。

(委員 4)

啓発をしても20代はいない。見たことがない。

(座 長)

今、各小学校では、エコ推進については熱心だ。

(委員 6)

話は変わりますが、2月のマイバッグの運動はどうしますか。

(座 長)

2月は前年どおり中止にしますか。

(事務局)

交通安全運動の街頭広報をするときは、学校が終わった時間帯の3時か4時にしています。

そのときは、学生や若い人が多い。パート勤めの若い奥さん方の帰って来られる時間帯でもある。

(委員 6)

一度、2月は、4時か5時にしてはどうか。

(座 長)

では、2月27日金曜日の4時にお願いします。

今、言われたように、持参率が50%になるとか60%になるとか、そういうことを目標にしているのは、やってられない。

小さいことから始めて、啓発という形でやっていかないと。

次に、3月の会議で、21年度の運動方針について検討していきたいと思っています。マイバッグ運動はこれまでどおり継続しますので、その他、アイドリングストップをするのか、どういう啓発活動をしていくのか、次回までに取組み内容をお考えいただきたい。

それまでに、市役所の実行計画も決まるのですね。

(事務局)

その件については、決まりましたら報告させていただきます。

(座 長)

今、21年度にどういう運動を起こしたらいいか、意見があれば言ってください。

(委員9)

今の件で、市の方で勧めている、省資源、省エネルギーの問題がありましたね。廃棄物を庭に穴を掘って埋めてみた。廃棄物は毎日出る。これをエネルギーに換算すれば、どれくらいになるのか。ずいぶん効果があると思った。

(委員1)

私は、何か集まりがあるときは、堆肥化をみんなに勧めている。

市民農園でも、はじめての人に教えてあげている。

中には、真剣に家から生ゴミを持ってきて畑に入れている人もいて、だんだん増えてきている。

前回に冬野菜を作ったとき、畑で白菜の汚い葉や、ねぎや大根の葉を、本来持って帰るべきものをそこへ置いていく。それを土の中に埋めておくと完全に腐ります。

前にそれらを埋めておいたので、今年はその畑では、太い大根ができた。

確かに野菜は良く育ちます。

(委員9)

私のところでは、生ごみは1日に3キロくらいです。

今、ごみに使う費用は、1人当たり1万数千円、年間3人家族であれば4、5万くらいの税金が出るわけです。

(座 長)

生ごみの堆肥化ですね。

(委員9)

グリーンカーテンのPRもしてはどうか。

(委員1)

生ごみを入れて土作りをしたところに、グリーンカーテンを作っては。

(委員9)

前回、京都環境フェスティバルがあり、いろんな学校の展示があった。

桂高校の農業は地道ないい活動をしていて、国際大会まで行って3位になった。

山林、間伐材とか、地元のものを使ってその他いろいろないい事例があるので、一度調べてみようと思っています。

(座 長)

福島県の上勝町は「ゼロ・ウェイスト宣言」をしていて、町長が書いた「持

続性のある美しい町上勝町」がある。町から1万円の補助金を出して、全世帯で電気の堆肥化を行ったことなどが書かれてあって、小さな町だがごみ減量化の参考になると思う。

(委員9)

処理のコストも大きいので、市の財政にとって非常に大事である。

(座長)

移動の堆肥化容器にもう少し市が予算をとってもらえば、市民の堆肥化への取組みが広がっていくのではないか。

(委員8)

この話は前から出ていて、食用油の活用の話とか、かなり議論をしましたが、生ごみの利用に関してはいいというのはわかっているけれど、このメンバーで、何をどういうようにしていくかという、具体的なところが決まらない。そこを話し合わないといといけないと思っている。一般の人にどうしたら勧められるのか。

(委員1)

それは、教える機会を作る。どういうように埋めるのか。埋め方もわからない。ただ、土に埋めるだけではいけない。そういうことから教えてあげないと。

(座長)

産業振興課の市民農園の貸出について、堆肥化を目的とした貸出とすればもっと広がるのではないか。

(委員8)

市民農園は、市が貸出しているのですか。

(座長)

市です。

(事務局)

現実的にも、借りている方の中でも堆肥化をされています。

(座長)

今よりももっと広げていくには、そういう形をとられる方がいいのではないか。

(事務局)

市としても、以前から生ごみ堆肥化の補助事業を行っています。

(座長)

お寺でも堆肥化に取り組んでいて、本願寺では、お墓の花を堆肥化して、お参りに来た人に持ってかえってもらっている。



(委員 5)

2 向でも、地域の人か、保護者の方が「生ごみを持って来て下さい」という日を作っている。

(1 月 29 日にある 2 向の環境研究発表会の案内について紹介)

(座 長)

第 1 回事業所を回ったので、今後 4 ヶ月後くらいに、その後の動きについて回ってみるのも必要だと思っています。

市民啓発と同時に、事業所へも継続的に啓発をしていきたい。

(委員 8)

先日の事業所への協力依頼文の継続性はありますか。一度だけの文書ですか。

(事務局)

ある程度 3～5 年は継続します。

(委員 8)

4～5 ヶ月後にもう一度事業所へ持って行くことは、問題ないですね。

(事務局)

可能なことです。事務の流れの中であと追いすることもありますので。

(座 長)

それでは、時間もきましたので、これで第 4 回の会議を終わらせていただきます。

(事務局)

長時間ご苦労様でした。

次回 3 月には、今日出ました内容につきまして、もう少し詳細につめていただきたいと思っていますので、今後の取組みにつきましては、各自お考えをまとめていただきたいと思っています。

3 月の会議日程については、後日案内させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。